記入例：相続開始前後の使用不明金の取り決めをする場合

遺産分割協議書

被相続人　A
出　　生　　昭和〇年〇月〇日
死　　亡　　令和〇年〇月〇日
最後の本籍　　〇県〇市〇町〇丁目〇番地
最後の住所　　〇県〇市〇町〇丁目〇番地〇

被相続人A（以下「A」という。）の相続財産について、Aの長男である共同相続人B（以下「B」という。）及びAの次男である共同相続人C（以下「C」という。）との間で遺産分割協議を行い、以下のとおり合意したため、本書を２通作成し、各相続人が署名捺印の上、各自１通を保有する。

１　B及びCは、次の財産がAの遺産であることを互いに確認し、これをBが取得するものとする。
〇〇銀行〇〇支店〇〇預金（口座番号〇〇〇〇）の使途不明金 300 万円に係る返還請求権

２　B及びCは、次の財産をAの適産分割の対象とすることに合意し、これをCが取得するものとする。
〇〇銀行〇〇支店〇〇預金（口座番号〇〇〇〇）の使途不明金 500 万円に係る返還請求権

３　次の預金は、Bが取得する。
〇〇銀行〇〇支店　普通預金　口座番号〇〇〇〇
〇万円（相続開始日の残高）

４　次の貯金は、Cが取得する。
ゆうちょ銀行　通常貯金　記号番号〇〇〇〇〇一〇〇〇〇〇〇〇
〇万円（相続開始日の残高）

以　上

令和〇年〇月〇日

B
住　所
〇　〇　〇　〇　㊞
C
住　所
〇　〇　〇　〇　㊞